

ファナック株式会社
2020 年度 第 3 四半期 決算説明会（電話会議） 質疑応答要旨
（2021 年 1 月 27 日開催）

Q. 第 3 四半期の受注が非常に強くなっていますが、この先の持続性をどのように捉えているか、地域別に教えてください。中国が大きく伸びていますが、その持続性と一般産業向けの業種を教えてください。

A. 受注が急上昇していると認識していますが、第 4 四半期も持続するかは見通せないところがあります。中国では春節を見越して少し先の納期の受注が入っている面もあります。現地では、IT 関係、建機、自動車など幅広い業種から強い引き合いがあります。米州でも EV を含めた自動車関係、一般産業向けの引き合いが増えています。国内の設備投資はこれから上がると見えています。

Q. アメリカと中国について、アメリカは新規投資に加えて先延ばししていた設備更新も出てきているのですか？中国は一般産業でさらに自動化が進んでいるのですか、協働ロボットなどの新商品の効果が出ているのですか？

A. アメリカでは自動車関係が戻ってきており、プロジェクトの谷間を経て、次の投資のタイミングになっている面もあります。中国の一般産業は IT が一層活発になり、幅広い業種からご注文を頂いています。協働ロボットの生産台数に占める割合はまだ限定的ですが、新商品 CRX は非常に引き合いが多く、生産能力の増強を図っています。

Q. ロボットでは四半期として過去ピークの受注を更新しています。中国では今までと違ったユーザや産業が増えているのですか。受注の内訳として、小型のロボットが増えているのですか？

A. 中国での自動化への要求は非常に高まっている印象があります。3C（コンピュータ・通信・家電）、物流、医療など幅広い業種から引き合いがあります。自動車以外の分野での用途が非常に増えていることにより、小型機種ロボットの比率が増えています。

Q. 営業利益率が第 4 四半期でもう一段上がる想定ですが、利益率改善の理由は？壬生工場の稼働率アップが効いているのですか？

A. 現在、FA・ロボット・ロボマシンの工場が総じて稼働率が上がっている効果と理解しています。壬生工場の減価償却費についても、稼働率の向上により利益への影響は薄れつつあります。

Q. 今後の販管費、研究開発費、人件費などの固定費のコストコントロールに関する考えを教えてください。

A. 研究開発費は将来の成長のために必要であり、優秀な研究開発員を雇用し、彼らを適切に処遇し、意欲をもってより良い商品を生み出してもらえるように取り組みます。セールス他の販管費は DX も推進しながら合理化効率化を図ります。

Q. FIELD system とデジタルユーティリティクラウドについて、自社で目に見えた効果が出ているのですか？

A. FIELD system は当社の工場を導入を進め、製造現場の見える化や改善などの効果が上がっています。こうした経験をお客様の工場に活かしていきたいと考えています。DUCNET も同様に、自社で活用してその価値を実感し、それをお客様にご理解いただきたいと思います。

以上

本資料に含まれている将来に関する見通しには、市場における製品の需給動向、競合状況、経済情勢その他に不透明な面があり、実際と異なる可能性があることをご承知お願います。